



NO.24 1997.10

aqca

社団法人 日本建築美術工芸協会

CONTENTS

'97 仙台aaca景観シンポジウム―「社と景観」	1
'97 仙台aaca景観シンポジウムを共催して 草 修	4
'97 仙台aaca景観シンポジウムと 研修旅行に参加して	
小菅 栄	5
三木 経一郎	6
長谷川 享	7
吉田 イサム	8
時代の華一輪	
仙田 満	9
aacaトーク	
本間 利雄	10
松永 勲	11
アピアランス(会員作品紹介)	12

■表紙デザイン 高部多恵子

表紙の作品を募集しています。
事務局までお問い合わせ下さい。

発行： 〓日本建築美術工芸協会
Phone 03-3457-7998
Fax 03-3457-1598
〒108 東京都港区芝5-26-20
建築会館6F

振替：東京 1-365085

編集：(社)日本建築美術工芸協会 広報委員会

広報担当理事 柳澤孝彦

玉見 満 (委員長)、高部多恵子、坂上みづ子

富田俊男、北村孝昭、石田真人

渡部毅志、高塚信吾

制作協力：(株)SP建材エージェンシー

'97 仙台aaca景観シンポジウム——「杜と景観」

日時 平成9年5月29日(木)

午後1時15分～5時

場所 仙台市青年文化センター
シアターホール

パネルディスカッション

司会：内井 昭蔵

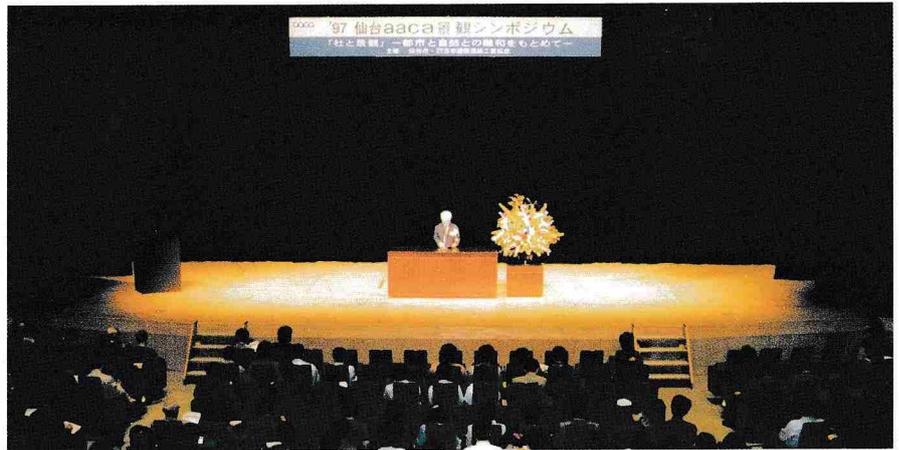
パネラー 東海林 恒英

上田 篤

ナンシー・フィンレイ

佐藤 忠良

野田 一夫



あいさつ



aaca会長
芦原 義信

景観少しでも良くしたい

日本建築美術工芸協会は文化庁公認の社団法人であり、建築家や美術家や工芸家一堂に集まりまして、わが国の都市景観、まち並みを少しでも良くしようとディスカッションしております。本日は第9回目のシンポジウムを、素晴らしい皆様にお集まりいただいて開催することができました。とくに、パネリストはわが国でもそうそうたる皆様がおいで下さいました。ぜひ楽しみに聞いていただきたいと思います。



仙台市市長
藤井 黍氏

新たな杜の都を創造

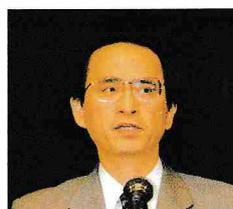
仙台市は、杜の都という歴史的な個性を受け継いできました。この先人から受け継いできた個性をこれからも21世紀に向けて守り続けていかなければならない。同時にまた、21世紀の新しい課題に対応して杜の都の新しい形を求めていかなければならないと考えております。

仙台も百万都市になりますと、杜の都の概念そのものも変わってこようかと思えます。今日的な杜の都への新しい対応ということで平成7年3月に景観条例を

制定し、この3月にはそれにもとづきまず景観基本計画を策定したところであります。これから市民、行政、事業者とが互いにパートナーシップを形成しながら新たな杜の都を創造していくべき責務があると思っております。

一口に景観といいましても多様な要素がその中には含まれております。視覚的なものもあろうし、究極的には精神的な癒(いや)しの風景を含めて幅広い領域にわたる多面的な内容を含むものではないかと思えます。シンポジウムが皆様のお知恵を借りながらいいシンポジウムになりますことを念じます。

記念講演



文化庁次長
小野 元之氏

文化は産業構造の改革に役立つ

わが国はいま4つの危機に直面していると感じています。

1つは急激な産業構造、社会構造の変化です。バブルが崩壊してまさに不確実性の時代になった。こうした社会の変化にきちんと対応していくことが課題となる。

2つめは、わが国の国際競争力が非常に低下している点です。これについては抜本的な規制緩和をしなければなりません。そして知識、技術集約型の付加価値の高い、文化度の高いものをつくることが課題としてあるわけです。

3つめはなんとなく経済が成長してきた国家としての目標が欠けてしまい、意志形成もあいまいになってうまく決まら

ない。それによってさまざまな問題が生じていること。官僚制度も産業も制度疲労を起こしている。前に進むエネルギーを生み出すためにも改革していかなければならない。

4つめは社会の成熟化あるいは退廃といってもいいかもしれませんが、勤労意欲が低下しているという点です。日本には人的資源しか資源はなく、さらに高齢化が進む一方で、人口が減少することは国として本当に深刻な問題です。掛け声だけではなく、徹底的に女性の社会進出を支援するシステムをつくる必要がある。

こうした問題に対応し、わが国の改革を進めていくうえでキーワードとなるのが文化です。

文化は一人ひとりの生きる証しであり、国にとっては拠って立つ存立基盤となるものです。文化への投資は未来への投資であり、産業構造を改革し重厚長大からソフトを重視する社会へと転換していくために役立つものです。さらに経済発展の牽引役として新しい雇用や需要を生み出すものであるわけです。欧米先進国に比べてGNPの比率からも日本はまだ文化に投資してもいい。

文化庁では1997年度から舞台芸術を重点的に支援しようというアートプラン21をスタートさせましたが、もう一つ美術館や博物館を心のインフラとして位置づけて振興しようというミュージアムプランをつくろうと考えています。地方の美術館はハコができて中身がなくよく言われますが、収蔵品だけではなく、学芸員の高度な研修制度を設けて資格を高めていくことや美術品の交流を盛んにするため国家保証制度をつくること、などが主なものです。

いま、新しい文化立国をめざそうとい

うのがわれわれ文化庁のキャッチフレーズです。21世紀のわが国をどうするか。21世紀にリーダーシップがとれる活力と輝きある国となるためには文化にもっと力を入れなければならないと考えているところです。

パネルディスカッション



aaca副会長
内井 昭蔵

森と環境幅広くとらえたい

仙台は地形、土壌、気候、緑の森、清流といった自然に恵まれた場所であります。しかし、これらの自然は与えられたものではなくて、すべての環境を市民が長い間継続的に守り育ててきたからこそ、今日の美しい杜の都があるのではないかと思います。

行政もまた多様で縦割りになりがちな分野を景観という点で総合的にと取り組むことで景観行政の方向性を確立されました。また、それが多大なる成果をあげられたと思います。

わたしたちは仙台が取り組んできた森づくり、まちづくり、景観形成についてお伺いしてこれからのまちづくりのヒントにしたいと思います。パネラーの皆様からはそれぞれの立場を踏まえて幅広い問題提起をお願いしたい。景観の問題はもとより、森と都市、森と生活、木の文化、木造都市、木と芸術、森と教育、こういったことを森と環境の面から幅広くとらえて皆様とともに考えていきたいと思ひます。

人間は森を食べて文明を築いてきたと言われています。人類に輝かしい発展を約束したはずの都市文明の誕生は、じつは大規模な森の破壊の第一歩であった。

私たちは都市文明の光の部分だけではなく、こういった逆の部分、森林破壊という暗い片も見逃してはいけな思ひます。人間は森を切って木を植えなかつた。メソポタミアの近く、インダス文明が衰退したのも森を切つたからです。

木を植えることが非常に大切なのは人間が自然のサイクルに参加するといえるからです。また木を使うことの社会的、

経済的意味を考える必要もあります。木を使うことを止めたために木を植えることを放棄してしまつた。林業の衰退、山村の過疎です。手をかけてこそ守られてきた日本の山や森は、いまや手抜き森になってしまつたのではないかと。自然を守るということは自然を利用することによって手をつけないということではないと思ひます。



仙台市収入役
東海林 恒英氏

悠久の杜づくり 新しい歩み開始

仙台は伊達政宗の築城以来、城下町として発展してきました。藩政時代の人口は武士と町人が6対4の比率ですが、屋敷の面積では8対2と武士は大変広い屋敷をもつていた。仙台の侍屋敷は前庭に杉や松、裏庭には栗、柿、桃を植えて自家食用にする風習があり、城から見るとうっそうとした森林に覆われていたといつていいわけではなかつた。

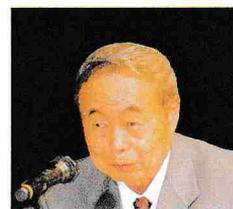
仙台が杜の都と呼ばれるようになったのは大正になってからです。仙台は藩政時代の景観が近代、戦前の昭和20年まで残つていた。これが杜の都と言われる由来といえます。戦災で中心部がすっかり焼け野原となり、いったんは消滅した杜の都ですが、市民は誇りに思つていた。新しい街の建設では、やはり杜の都の再現ということが一つのキーワードになつたわけではなかつた。

杜の都の復元に向け、昭和48年には杜の都の環境をつくる条例、49年には広瀬川の清流を守る条例と当時としてはほとんど想像されてないような条例をつくりました。これが自然環境あるいは景観といったものにどれだけ大きな力になつたか、とわれわれは誇りに思つています。

その後、彫刻のあるまちづくりということでオーダーメイドの彫刻を市内の各地に設置し、現在20体まで増えました。定禅寺通りではジャズフェスティバルや仙台の冬の風物詩となつた光のページェントなど、景観をつくり、そしてその景観を生かす生活が仙台の街の中に染み込んでいます。

自然の保全から景観というところまで

進んだ仙台市の政策は、平成7年には杜の都の景観を育むという条例になりました。これからの方向としては、もっと自然に近いものがあるといい。天然記念物に指定されている青葉山一帯の貴重な森を生かした悠久の杜づくりなど新しい杜の都づくりを21世紀に向けて歩み始めようとしています。



京都精華大学教授
上田 篤氏

自然の森もっと都市のなかに

日本の森は5つの効用を生み出した。山の幸、海の幸、治山、治水、治人であり、とくに森は人間や集落を守る要としての役割も担つてきた。沖縄には美しい森のそばに村をつくらうという意味の歌がある。日本人の村づくりの原点がそこにはある。

日本の森林面積は国土の7割と言われるが、じつは森が非常に少ない。戦後杉や赤松を積極的に植樹したため、日本の森は非常に単調になつており、ほとんどか林だといつていい。森は1割もないのではないかと。森と林を地下水の涵養という面と比べると3対1で林が少ない。森はうっそうとして蒸発を許さない。ここに日本の森林の問題がある。

そこで非常に大きな意味をもつのが鎮守の森だ。いろいろな価値があるが、一つはいろいろな樹種が共生した自然的な価値があり、もう一つは文化的な意味もある。とくに強調したいのが森の価値。ランドマーク、目印、標識としての価値がある。知らない街にいつて地図を見るとき、お宮のマークに注目する。必ずしもくもくと盛り上がる森があり、遠目からでもすぐわかる。これが公園ではだめ。木が貧相で低くて見えない。

集落のそばにある里宮は拝む方向はたいていは山。山にある山宮にいくとなにを拝むのか。洞窟であり、大きな岩です。そこまでいくと最後は海を拝む。そういう順番で神社がある。遥拝のデザインであると思う。海と里宮と山宮。海で漁をするとき、山の宮をランドマークにしている。だから大漁のときは必ず山の宮に御礼する。巖島神社も森を背景に森と

'97 仙台aaca景観シンポジウムを共催して



仙台市都市整備局都市景観室長
OSAMU KUSA
草 修
宮城県仙台市青葉区国分町3-7-1
TEL.022-214-8288

新緑が映える6月、「杜と景観」をテーマとした「'97 仙台aaca景観シンポジウム」が日本建築美術工芸協会の皆様のご尽力により、杜の都仙台で580名の大勢の方々の参加をいただき、盛大に開催されましたことについて、厚く御礼申し上げます。

この度のシンポジウム開催にあたっては、私自身、今年の4月に移動してきたこともあり、その上、5月の開催ということで、それ程時間的な余裕もないことから、無事開催に漕ぎ着けるかなあと不安に思ったこともありました。

しかしながら、伊藤事務局長さんはじめ本部事務局、地元aaca会員の皆様と何回となく、開催準備についての打ち合わせをさせていただいたことからそういった不安も解消する事となりました。

何かと至らない点もあったかとは思いますが、その点についてはご容赦願いた

いと思います。

さて、今回の景観シンポジウム開催は、私及び本市の都市景観室にとって思い出深い記念すべきものとなりました。

それは、今年4月、本市に新しく都市景観室が設置されたところでありますが、そこで最初に取り組んだ景観シンポジウムであったこと。また、テーマも杜の都仙台にふさわしい「杜と景観」ということですばらしいパネラーの先生方にお集まりいただいたことにより、我々予想していた以上の多くの市民の方々に関心をもたれ、会場がほぼ満席になったことでもあります。地元開催都市としてこれほどうれしいことはありませんでした。

仙台市では、これまで、杜の都の歴史的個性を受け継いでおり、守り続けると同時に、今後、杜の都の更なる姿を求めていかなければならないと考えております。

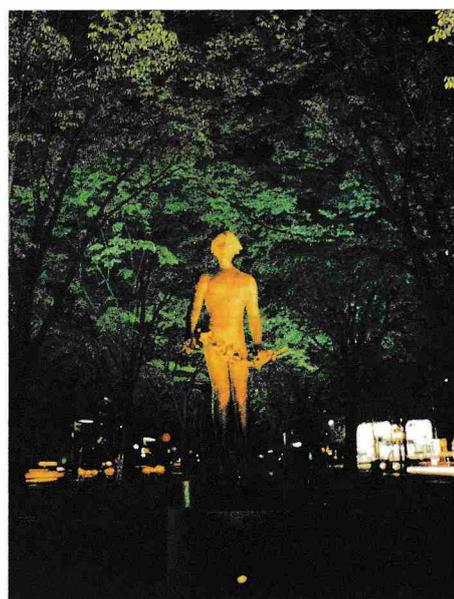
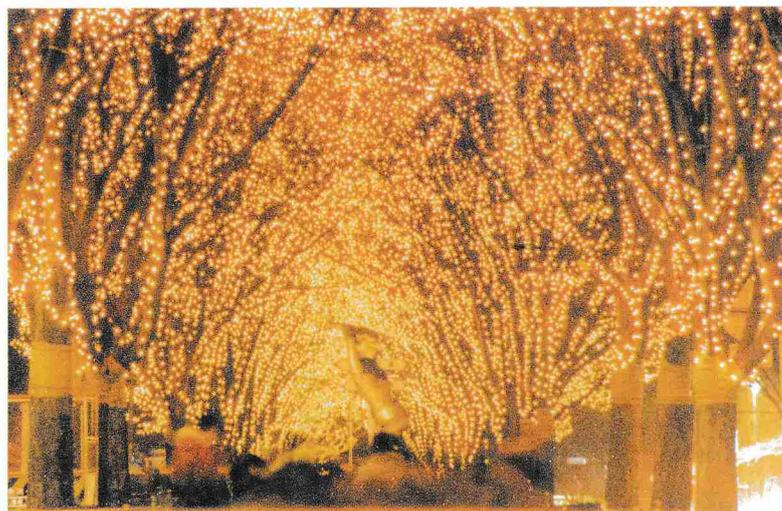
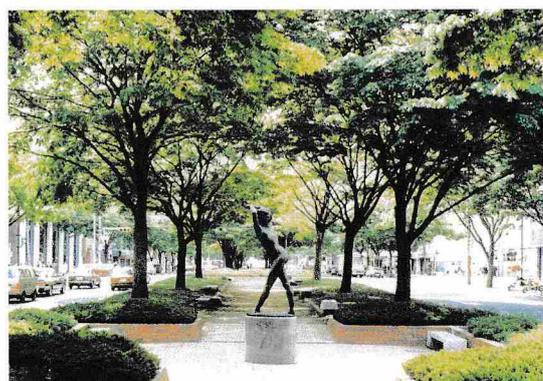
こうした観点から、平成7年に自然と

調和し個性に富む、文化の薫り高い「杜の都」を創造することを理念として掲げた「杜の都の風土を育む景観条例」を制定し、平成9年3月には景観形成を総合的かつ計画的に進めるための基本的な方向を明らかにした「景観基本計画」を策定したところでもあります。

本市としては、今後新しい街づくりの中に、積極的に景観行政を取り込んでいきたいと考えている次第であります。

今回のシンポジウムでは各パネラーの先生方の示唆に富んだお話や貴重なご意見を拝聴することができ本当に多くのシンポジウムであったと思います。

最後に、前回開催の北九州市から適切なご教示をいただきましたことに感謝いたしますとともに、日本建築美術工芸協会のますますの発展と、今後のシンポジウムの成功をお祈りいたします。 



'97 仙台aaca景観シンポジウムと研修旅行に参加して



aaca会員
社団法人 日本建築家協会会員
株式会社 小菅栄建築設計室 代表取締役
SAKAE KOSUGE
小菅 栄
東京都豊島区高田1-1-12
TEL.03-3983-1313

この景観シンポジウム+研修旅行に参加する1週間前、私は強行スケジュールに組まれたフランクロイドライトの建築めぐりをしてきたばかりであった。自然との融合をはかったライトの建築はまさに景観に調和したものばかりであった。ライトやミースの建築を見た感激、時差ボケ、旅づかれもさめやめまま、仙台行きの新幹線の車中の人となったのである。山合いから盆地を走り抜ける車窓には郡山近くにさしかかると、茶系の瓦葺きの民家が目立ちはじめ、所々に鎮守の森と思われるこんもりとした大木の固まりが見えてくる。車窓をぼんやりながめる旅が好きな私は、その地方で焼かれた瓦葺き屋根の民家を発見すると心が安まる思いがし、あらためて日本に帰って来たと感じる時間であった。

さて、今回の会場である旭ヶ丘は杜の都仙台にふさわしく、実に多くの緑に囲まれた街である。シンポジウムは、ほぼ満席で、コーディネーターである内井先

生が、杜と人間社会との深いつながりを述べられディスカッションは始まった。東海林仙台市収入役の仙台市の景観基本計画推進役としてのお話、フィンレイさんの環境教育は、森にふれる体験から生まれるという自然の中での体験の大切さを力説されたお話、さらに上田先生は、私が車窓からぼんやりと見た、都市の中の森、日本独得の風景、鎮守の森のなどをロジカルに話された。野田先生や佐藤先生のユーモアを混じえた貴重なお話等、とても楽しく、また大いに考えさせられる貴重な時間を過ごすことができました。ただ各先生方の持ち時間が短かったことが少々残念に思った。

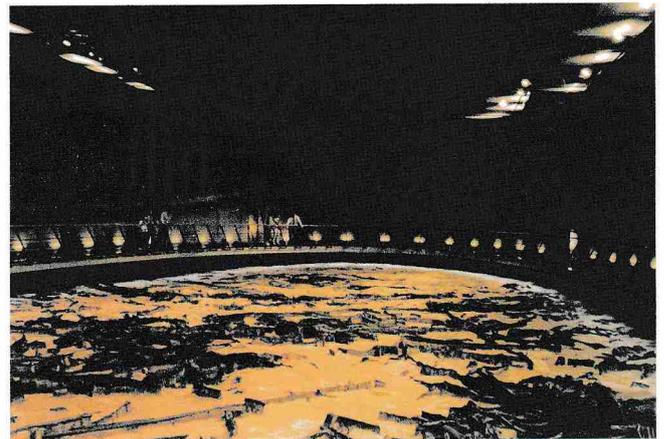
AACA研修旅行の楽しみの1つに、建築、工芸等の見学会、そしてグルメがある。今回もいくつかの見学ができました。その中で2つだけ感想を述べたい。「白石第2小学校」は設計者自ら説明をいただいた。ワークショップを開き意見交換からはじまった設計内容は、楽しい仕

掛けがあり空間の使い方も様々な可能性が感じられ、すがすがしくあたたかいものであった。もう1つの「地底の森ミュージアム」は、周囲の地盤から少し盛り上がった丘に建つ楕円形のコンクリート打放しの建物に近づくにつれ地下にもぐるアプローチは、知らず知らずのうちに、2万年前の世界へとタイムスリップされてゆく様なみごとな演出がほどこされ、又、内部に入るとは、当時の人々の生活跡や森林の跡の中で、今回のシンポジウムのテーマである“森と人間社会のつながり”といったものをあらためて考えさせられる幻想的な体験であった。

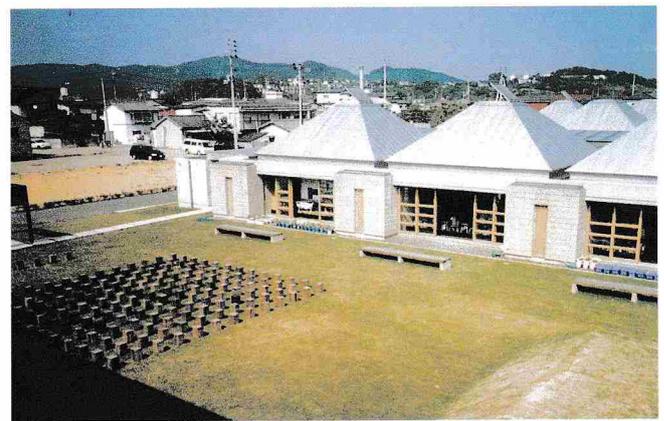
シンポジウムから始まり建築、和紙づくりの見学、温泉、そして松島の別荘での楽しかったバーベキューパーティーと、素晴らしい時間を過ごさせていただきましたことは、ひとえに事業委員の皆様をはじめ、地元関係者の皆様のお陰かと感謝致しております。ありがとうございました。



県立宮城大学



仙台市富沢遺跡保存館「地底の森ミュージアム」



市立白石第二小学校



aaca会員
株式会社 トーヨーコ理研
KYOICHIROU MIKI
三木 経一郎
東京都千代田区三番町8-7 第25興和ビル
TEL.03-3221-1910

芦原会長、藤井仙台市長の挨拶、小野文化庁次長の記念講演に始まったシンポジウムはコーディネーターの内井副会長より、人間の自然サイクルへの参加、森と人間生活、文化と環境といった点が問題提議され、これをうけてパネラーの5人の先生よりご専門の立場での熱気あふれるご発言があり、参加者の一人として次ぎの世代に引き継ぐべき自然と融和する都市とは何かを考える、実に感銘深いシンポジウムでした。

なかでも、東海林先生の杜の都仙台の変遷、ナンシーフィンレイ先生の自然環境への意識体験、上田先生の森と林の定義、大中小の自然、鎮守の森の自然保護の役割、佐藤先生の彫刻と景観公害、野田先生の公共施設の受益者負担といったご意見を興味深く拝聴いたしました。特に佐藤先生のユーモアあふれる現代文化への風刺と野田先生の痛烈な現実社会への批判には、会場内の多くの仙台市民と共に思わず同感の拍手をおくりました。

今、日本は国際化の波の中、社会全体が大変革の時を迎えておりますが、今までの日本人の得意とするスピード重視、

経済優先の価値観を、今後は大宇宙の長い長い時間の流れの中で、微妙にバランスが保たれている地球の自然環境に配慮した、ゆるやかな時間をかけた都市の環境づくりへと転換していく必要を、痛切に感じました。

今回のシンポジウムでは、事業委員として初めて事務局のお手伝いをいたしました。準備期間も少なく、同時に研修旅行を実施したため、仙台在住の会員に協力をお願いいたしました。このことが地方会員の参加意識、増強等を考えるきっかけとなりました。

従来、PR、運営等は共催の自治体に主として依存をしておりましたが、今後は地元会員とも協力して実施することが、地方会員の活性化に寄与することを実感いたしました。

またaacaトーク等を地方会場でも実施することが、地方会員のネットワークづくり、増強等につながるのではないかと思います。

今年の研修旅行は個性的なaaca手づくりの企画といたしました。ゴルフ組、見学組共好天にめぐまれ、みちのく仙台

の自然と景観を満喫いたしました。有意義で楽しかった研修旅行先の仙台ロイヤルパークホテル、泉パークゴルフ倶楽部、宮城大学、仙台富沢遺跡保存館、鐘景閣、白石第2小学校、白石和紙遠藤家、竹泉荘、藤田喬平ガラス美術館、夢人島のご関係の皆様のご協力、ご配慮に心から御礼申し上げます。

なお今回のシンポジウム開催にご尽力いただいた文化庁、仙台市、地元会員に厚く御礼申し上げますと共に、研修旅行の企画に際し、中島専務理事、吉田会員、佐藤総合設計、板倉建築研究所、芦原太郎建築事務所にご協力いただいたことを感謝いたします。

またPR活動、サロン・ド・トーク、会員誘致、交流会司会、研修旅行企画、カンツォーネ、阿波踊りと総てに尽力を惜しまれなかった地元の吉田会員には特に謝意を表します。

最後に今回のシンポジウムを裏方として細心の準備をし、支えて下さった仙台市都市整備局村上局長他の皆様とaaca事務局に厚く御礼申し上げます。 



県立宮城大学



県立宮城大学



市立白石第二小学校



aaca会員
有限会社 長谷川亨建築設計事務所 代表取締役
TORU HASEGAWA
長谷川 亨
東京都港区六本木7-3-2 ラポール乃木坂304
TEL.03-3408-5118

日頃、設計の仕事に忙殺され、ともすれば、仕事だけの人間関係になりがちな生活です。AACAの催しに参加することで、他の建築、美術、工芸家の方々に会い出来、その作品並びに人柄に接する機会に恵まれ、その度毎に貴重な経験が出来ました。

今回は、「杜の都」仙台AACA研修旅行に参加させて頂き、「楽しい思い出」と「新たな出会いの場」に感謝いたしております。

仙台市は、奥羽山脈から連なる緑豊かな丘陵で広瀬川をはじめ多くの清流、豊かな田園、更には太平洋の美しい海岸線と、まことに多様な自然が織りなす美しく情緒溢れる街です。

当日、新幹線で夕方6時仙台市に到着、地下鉄利用、タクシーで宿泊先の仙台ロイヤルパークホテルに入りました。

当ホテルは、三菱地所の開発による泉パークタウン内のシンボリックな建物で、中央7階左右ウィング5階建。受付でなくレセプションデスクがあるといったヨーロッパスタイルの洗練されたホテルで、隣接して泉パークタウンゴルフ倶楽部が有り、翌日のゴルフコンペ会場となります。

その夜、ホテル内の豪華な宴会場で、懇親夕食会が開かれ、今回のシンポジウムの企画、運営に御尽力下さった行政、仙台在住の会員の方々の紹介、会員による芸能会と大盛会でした。

仙台市で活躍されている建築家の方々の会話の機会を得、「杜のみやこ」より特徴づけられている仙台市において、いかに自然を守り「都市」、「景観」を育てられるかがうかがえました。

私は、現在の建築、都市の多くが画一的な社会システムや、建築家による恣意的な主張によって造られているのではないかと思います。仕事を通じて社会との関係を模索する。その結果として作品が生み出されるのでと考えます。

仙台市は自然と歴史が織りなす街です。この中で仕事をされた方々の作品を想いつつ、その夜は、広すぎるベッドの中で、ぐっすり眠りました。

翌日は、ゴルフプレーを楽しんだ後、車で本日の宿泊地である遠刈田温泉へ向かいました。遠刈田こけしのふるさととして知られる街は、風情を感じさせる木造の宿が立ち並んでいます。

中心街より僅かに離れ、静かな木々の中に溶け込んで落ち着いた趣のある建物が本日の宿である竹泉荘でした。会員である吉田イサム氏設計によるもので、天皇陛下もお泊まりになられるとの事。部屋では、仙台市の建築家で、素朴で味わいのある人柄の鈴木弘人氏、サンライズ社長で話題豊富で人懐い竹生田氏と同室で、早速、露天風呂に直行、裸のお付き合ひとなりました。

その夜、当日の研修旅行の目的地の一つ、白石第二小学校の設計をされ、説明

のため、忙しい中来ていただいた建築家、芦原太郎氏も出席された宴会は、日頃とは打って変わった隠し芸の数々や参加者全員での阿波踊りで、一気に盛り上がり、続く二次会では、カラオケの大歌謡大会と相成り途切れることなく歌声が深夜まで響き渡った次第です。

翌日は、バスで日本三景の一つに数えられる風光明媚な松島海岸へ向かい、途中、藤田喬平ヴェネチアングラス美術館を見学。氏の作品に共感したホテルの経営者が、ホテル敷地内に建築したもので、その作品は日本的な趣の中に、洗練された美しさがあります。

館内の一部に茶室がありガラス製の茶器がその茶室との見事な調和を醸し出しております。伝統的な建築は、その風土の中で生まれその生い立ちの時から、美意識に支えられたもので、様式に囚われず、現代においては、美についても、表現の方法についても、創意あふれ、多彩で変化に富んだもので良いと思います。

旅の終わりは、松島海岸線にある夢人島で、屋外バーベキューを囲んでの大酒盛と、半島に迫出した桧風呂に浸かり、海岸の絶景を堪能した次第です。

「文化」とは、極端にいえば「遊び」があるということであると言われた方がいますが研修旅行に参加して、数々の貴重な経験をし、企画、運営された方々の御努力にひたすら 感謝！感謝！

以上 





aaca会員
 建築家 吉田イサムとアーク・ハイ
 ISAMU YOSHIDA
吉田 イサム
 宮城県仙台市青葉区中山6-1-13
 TEL.022-279-7051

光を透過した赤、こんなにまで美しいとは、青、黄そこに流れる様に彫り込まれたガラス質の帯は車にその光を躍動するかに。じっと見つめるその永い時間は何物も忘れ、ただ感動の連続である。“次どうぞ、こちらへ、まだまだ先に一杯ありますから！”私の誘導の声も聞えないのか、動く気配もない。

先程、蔵王のふもと、竹泉荘から到着したばかり、緑一杯の2万坪の林、それにつながる樹海の中で楽しんだ露天風呂にうまい酒、わずか8時間後に、ここ松島での、限りない美の探求はまだ、昨夜のアルコールが抜け切れない眼には転換が早すぎたか、驚きと感動、そして、東北、という先入観の脳裡には、まさか、という、とまどいの中、わが“AACAの会員の皆様には朝の目ざめに丁度良い見学コースだったかもしれない。

松島、日本三景の一つではあるが、今や景色への感動と食事だけでは、大衆は満足しない時代、何か、現代、未来、或は文化としてこの地の環境に合体させられ

るものとは誰しも考えるところだが、この旅行”一の坊の館主は日頃から美術品には造詣が深い、偶然にも、あの、あやしげな魅力を持つ藤田喬平氏の作品との出会い、ヴェネツィアの練磨は作品に東洋をにおわせながら、遥か彼方の日本人の手に届かない魅力の色、赤青黄、そして自ら東洋的雰囲気等を単に強調した、金、誰もが、色と共に魅せられるものだろう。

全作品を、ヴェネツィアの海に見たてたこの地に美術館となって現出したのである。

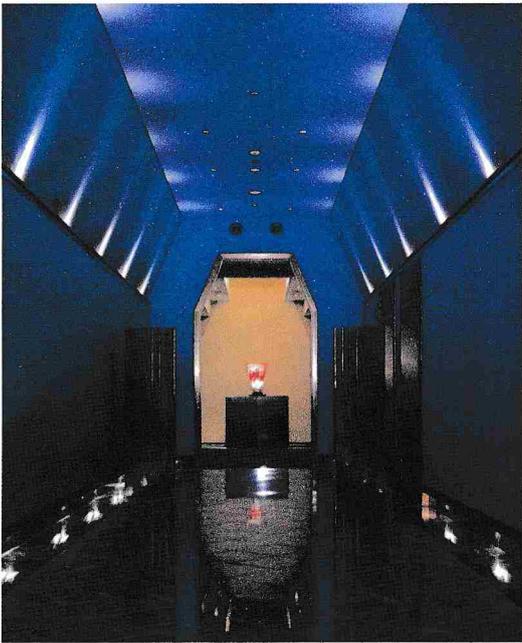
はるか、古代より、そして芭蕉も驚きの余り句にならない句をつくってしまった松島は、今、平成の味付の上に単に観光地と共に文化享受の地として発展しようとしている。

一室二室と見ていく内に大きなドアが自動的に開けば、そこは松島の海、松の緑が神々しい陽光と共に目にまぶしい。渡廊下はもうヴェネツィアの世界ではない、松島と日本を結ぶ、和の雰囲気だ、前後の海に突出せんばかりの休み屋風の

和の中に、茶室と共に彼の作品、勿論、茶入、香合、水指し等、どれも魅力的で手にしてそのまま持ち帰りたい誘惑にかられる。究極は真赤な道具で飾られた台子の上だ、一枚ガラスの向うに松島の風景、さぞここに招かれる客人は幸せなことだろう、西洋と日本のエスプリを同時に味わえるのだから――。

次に向う、夢人島、仙台の人も知らない、秘境の島そこからの絶景を楽しみながら再び露天風呂とバーベキュー、プライベートビーチにカクテル、マダムの手づくりだんご。AACA '97仙台シンポジウムの最後を飾るにふさわしいエスカッション。イタリア大使も、ソプラノ歌手もここで阿波踊を踊らざるを得なくなった程の場所だ。

多くのご担当委員の方々、ことに三木さんの細かな気配りは仙台の魅力充分発揮。そしてシンポ開催の最大の成果はこの地の会員11名が増えたことである、今後の魅力ある会づくりにご指導を乞うばかり――。



松島 藤田喬平美術館



蔵王 竹泉荘

時代の華一輪



aaca会員
東京工業大学教授
MITSURU SENDAI
仙田 満
神奈川県藤沢市片瀬山5-11-6
TEL.0466-27-6177

こどもの遊び環境の研究は、 私のデザインを鍛えてくれた

30数年こどもの遊び環境のデザインをやってきて、やっとこの頃子ども達の遊び環境のデザインというものがわかりかけてきた。この分野は先輩が全くいない。したがって遊び環境の専門家ではあっても、実際にはわからない事ばかりである。自分で思考錯誤して設計したものを、子ども達やそのファミリーがどのように利用しているのかを、観察調査やアンケート調査をかけてフォローして分析するという形で、その方法論を探ってきた。ようやく、こうすれば成功するのではないか、こうしなければ子ども達も家族もリラックスして遊ぶ事が出来ないのではないか、という感じがわかってきた。10年程前から遊環構造という形でこどもの遊びやすい空間の構造を提案してきたのだけれど、この10年間はその仮説

が間違っていないことを確信出来るようになった。今年建築学会賞を受賞した愛知県児童総合センターはそういう意味で私のデザインの集大成だといえるかもしれない。しかしながら新しい課題を越えると次に又新しい課題が待ちかまえている。遊び環境の研究は未だ途中である。健康な大人はある意味で鈍感である。空間的な問題も、環境的な問題においても、精神的、肉体的に自己調整してしまう機能を内在している。しかし子どもや病気の人や障害を持った人は、その自己調整機能がなかったり、弱まっていたりする

ものだから、ある意味で空間や環境に対し、極めて敏感である。従ってこどもの研究をすることは、健康な大人にとっても考えねばならない事がかなり明確になるのである。そういう点で私のこどもの遊び環境のデザインとその研究は、私の建築設計・環境設計において本当に基礎を鍛えさせてくれたと思う。単にこどもの分野だけでなく、すべての環境デザイン分野での基礎的な設計の方法を学ぶことが出来たといえよう。これからはさらにこの研究とデザインを世界に発信出来たらと考えている。





aaca会員
本間利雄設計事務所
TOSHIO HONMA
本間利雄
山形市小白川町4-13-12
TEL.0236-41-7711

山形の風土と建築

東北・山形という限定された地域で建築設計活動をする私は、「風土」からの発想を常に意識する。「風」は外から入るものであり、「土」はその場所にある固有のものといえる。「風」と「土」の幸福な関係はその時々文化をつくってきた。

江戸時代から明治に入って鉄道のネットワーク化が進むまで、最上川舟運は山形と京阪の文化交流に大きく貢献した。山形からは文字通り「土」から育った紅花等の農産加工品が移出された。そして京阪からは例えば蔵という建築様式が伝えられ、蔵座敷という生活の型を流布させた。蔵座敷は山形県内陸部では現存するだけでも500棟以上といわれる程に現在では地域の個性的な景観資源となっている。

しかし「風」は時には強すぎて、土着のものすら吹き飛ばし、私たち地方の人間を困惑させる。とりわけマスメディアから伝わる新しい、しかし感動を与えることの少ない建築の情報、地方の建築の在り方を模索することの意味を見失い

がちにすることもないわけではない。

そんな、地方の地域の建築づくりに迷いがある時など、生まれ故郷の小国の飯豊山麓のブナ原生林に遊ぶことが、私にとって大きな慰め、癒しとなる。そしてブナをはじめとする森の中の多様な生きものたちへの敬けんな眼差しや、変化ある景色への驚きや感動が建築をつくる気持ちに素直にさせる。

山形という一つの地域も実はもっとも小さなお隣の集まりであり、それぞれの県境が山に囲まれた小宇宙をつくっている。そこでの支配的な景観をつくる山が山岳信仰の対象ともなれば、山に向かって手を合わせるという行為も自然なものと思えてくる。

だからこそ、それぞれの建築がつけられる場所性というものに、そして土着の伝統からの発想、山の形のメタファーとしての屋根のデザインそれぞれにこだわらざるをえない。

橋のデザインひとつとっても、そういう意識を呼び起こすものにと考えてしまう。あるいは生活を閉ざしがちな冬の風雪などと建築との親和的な関係づくりも

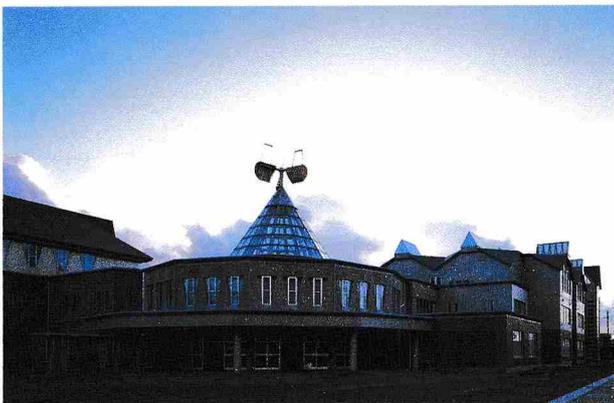
常に課題としてある。

これからも建築の初源的要素を土地に求めることに疑問はないが、それをより素直に表現できればと思う。

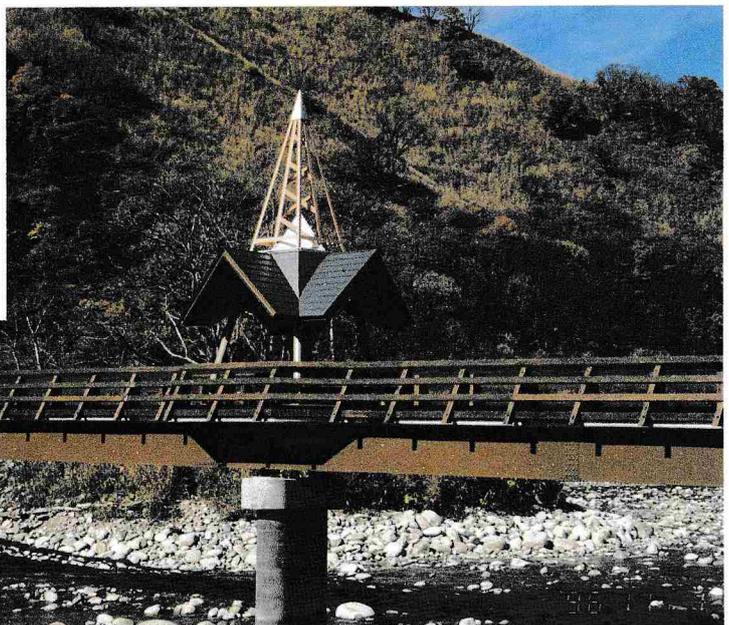
そういう土着的なものからつくり出された建築ではあっても、文化的な要素の挿入ということからそこにはやはり、「風」が介在して欲しいとも思う。例えば彫刻家らとのコラボレーションもそういう「風」の一つといえるだろう。それは、生成された建築空間をより高い次元に引き上げ、心地よい緊張感をつくり出してくれる。

ブナ林に吹く風は優しいだけではない。時には過酷なほどの強風が吹き抜ける。しかしブナの木々は互いに寄り添うように風に耐え、また大きく枝を張った木が小さな生き物を守るように風を遮る。ブナ林そのものが変貌することはない。

地方の建築もそうありたいと思う。これまでの土着性、生活文化やあるべき場所性を見失わずに人の心の奥にまで触れる建築を追求したいものである。



立川町立立川中学校（立川町／1995）
風の町として、風をキーワードとした地域づくりを進めている立川町の学校。光や風と対峙しつつ融和する小空間をつないだ教室群が外観の特徴。風の造形作家・新宮晋のモニュメント「宇宙への窓」が魅力を添える。



かじか橋（荒川リバーサイドパーク／小国町五味沢）
朝日山系を源とする荒川の上流部にある荒川リバーサイドパークは、白い森・小国の観光交流拠点、延長125mのかじか橋には雄大な自然景観に配慮し、橋の中程にはランドマークとなるようなやぐらを配した。



aaca会員
 染色作家 東京芸術大学教授
 ISAO MATSUNAGA
松永 勲
 埼玉県鴻巣市本宮町4-14
 TEL.0485-41-4816

染織の世界

染色は、生活の中で大変身近な存在です。現在では、衣服、インテリアなどとして、多様な方法で作られた繊維製品を目にしますが、そのほとんどは機械化、量産化によるものです。

しかし一方で、日本には長い年月をかけて磨かれた技法と技術による手仕事の染織の世界があります。染織には、染色と織物の二つの大きな分野がありますが、わたしの専門が染色ですから、そちらを中心に話をいたします。

織は糸を染めることから始まるのに対して、染色は、白生地（白い布地）に染料等を用いて、図柄や地色を染め上げることが、その仕事です。しかし、染料は水溶性ですから布の上でにじみますので、染めたい部分と他とを区切ることが必要です。これを「防染」といい、染色の特色のひとつです。

友禅染や型染めは防染材として、もち米の粉をベースに作った糊を用い、ろうけつ染めは、蠟が水をはじく性質を利用

しています。布の一部を糸でしっかり括ったり、二枚の板で上下から強く押さえて、染料の浸透を防ぐのが絞り染めの原理です。

防染方法の違いで、それぞれの表現の特徴が出て来ます。

日本は、他に例を見ない程たくさんの染織技法があります。この特質を考える時、民族衣装である「着物」の存在が大変重要です。多彩な染織表現は、着物を通して発展して来た歴史的経過があります。

また、着物の形態も、布の裁断の妙といえるもので、着れば立体、畳むと小さな平面として収納出来、衣桁に掛け広げて、絵と同様に見て楽しむことも、昔からあったようです。

辻ヶ花、茶屋染、友禅染、江戸小紋や中形、匹田絞り、紅型など、先人の智恵と技術は素晴らしい染織品を生んだのです。

この伝統的な染織の世界と共に、最近では、ファイバーワーク等の仕事に見るように、新開発の素材や、従来は余り使われなかった素材による作品も多くなって来ました。絵画、彫刻、工芸、デザイン

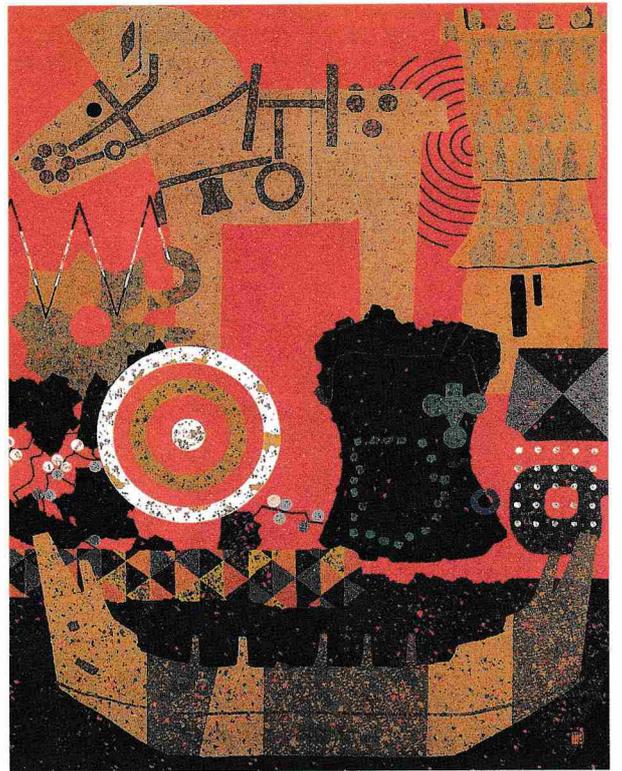
も現在は、その境界が定かでなくなっています。このような状況下では、自分の造形のポリシーや、それを表現する技術、素材への知識などが一層求められて来るでしょう。

私は、日展、現代工芸美術展等に染織作品を出品しています。装飾古墳の壁画文様や埴輪など、古代のロマンにひかれて、こうしたテーマで制作を続けています。個展等では、身近な植物などもモチーフに加えております。

私の製作技法は型染で、染料と顔料を併用しています。染料による透明な素材感と、顔料の厚みのある色面との画面での質的な対比の面白さに、近頃は主眼をおいて制作しています。

私は額やパネルの作品がほとんどで、このような画面性の強い染色作品は、形や色彩と共に、素材感が大切な要素と思っています。

繊維の素材が持つ、おだやかな表情の染織作品が、現代の生活空間に一層活用されることを願って話を終わります。



第26回日展(1994) 古代譜 '94-II

アピアランス 会員作品紹介



デザイナー
CHIYOKO SUZUKI
鈴木 千代子
山形県山形市銅町2-11-15
TEL.0236-23-3228

飯豊町は山を背にして非常に美しい田園風景の広がる町である。依頼を受けた時、硬質のステンレスを使う事を躊躇したが視点を上方に持って行き、柱の間に風景を取り込む事で作品と自然とが一体になる様にしました。

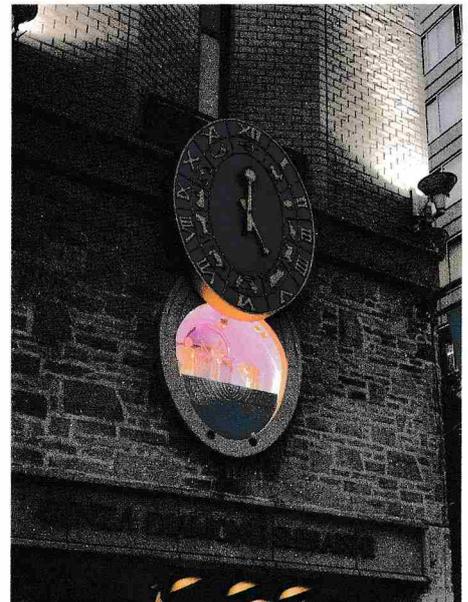


飯豊町民総合センター
モニュメント「風」
設置場所：
山形県西置賜郡飯豊町
7000mmH×6000mmW×
5000mmD



スペースのアートプロデューサー(環境デザイナー)
KUNIKO UENO
上野 邦子
東京都目黒区下目黒1-5-19 京王目黒M410
TEL.03-349-08759

昨年、企画プロデュースをしたからくり時計です。女性のエレガンスのイメージをガラスの天使で表現。ACAの安河内さんに制作でご協力いただきました。夜は変化する照明がガラスの輝きを効果的に演出します。



「からくり時計」
設置場所：銀座
ダイヤモンドシライシ
2030(3300)mmH×
1530mmW



画家 立体照明作家
KOZO SATA
佐田 興三
千葉県船橋市夏見4-12-28
TEL.0474-22-1071

自然そのものを感じさせる材質の和紙と、人間の創り出した光(照明)と、彩色(個性)の調和を大切にしていきたいと思っています。自分の思う四季(時)の流れが、近代建築の魅力の一端になれたらと望んでいます。

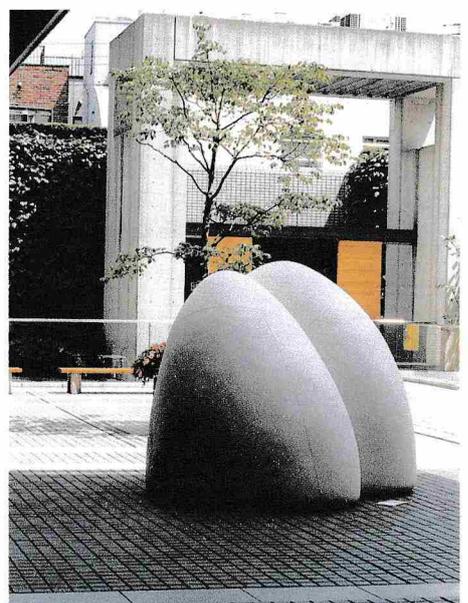


「いろは」
設置場所：銀座 薔薇画廊
1350mmH×350mmW×
350mmD



彫刻家
AKIRA KAWAHARA
川原 昭
千葉県市川市大和田4-16-3
TEL.047-377-3031

建築とアートの接点を探る。建築空間の緊張感を軟らげるため人体の曲線をモチーフに、内的エネルギーの膨らみを表現した。建築と人との緩衝的役割を占め、人間性の復活と安らぎの空間造りに成功した。

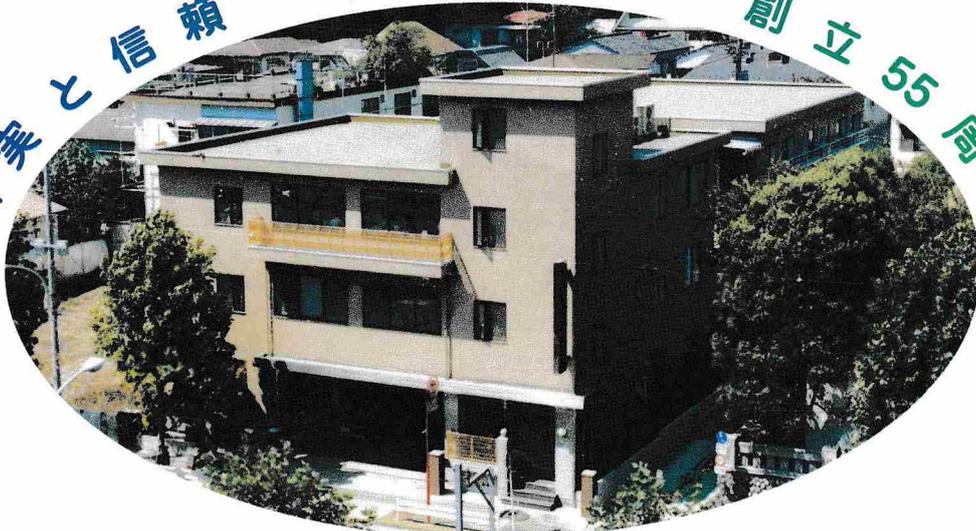


「沈黙の終り」
設置場所：建築会館
1800mmH×2500mmW
×1700mmD

アピアランスの作品を募集しています。事務局までお問い合わせ下さい。

誠実と信頼

創立 55 周年



本社社屋

1500棟の実績 特許工法：軸ボルト式トラス大スパン構造（陸海軍用格納庫 50棟）PD式鉄骨構法（体育館・工場・倉庫・市場 300棟）



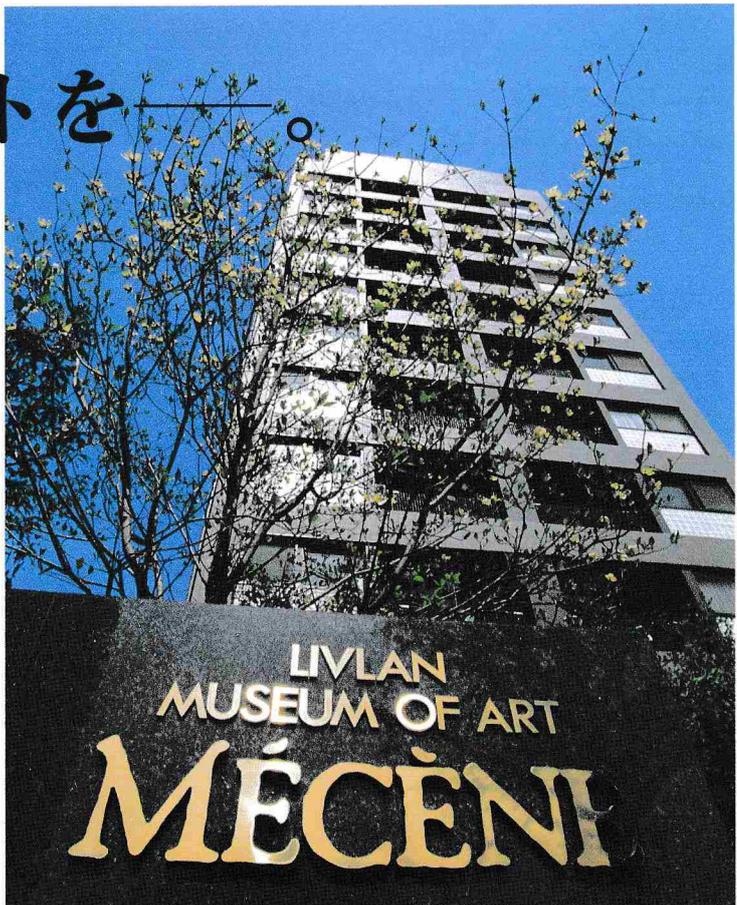
河野建設株式会社

初代社長 河野 輝夫
代表取締役社長 高木 哲夫

河野建設一級建築士事務所（1000棟の実績）／有限会社 アール・エフ・シー（分譲マンション10棟の実績）

本 社 〒161 東京都新宿区下落合4丁目1番地18号 TEL 03-3951-9156 / FAX 03-3565-3752
営 業 所 〒228 神奈川県相模原市上鶴間3丁目4番地30号 TEL 0427-42-6979

暮らしにアートを。



株式会社 リブラン
株式会社 リブラン販売

本社・本店 〒173 東京都板橋区大山町17-4
TEL 03-3972-0072 FAX 03-3972-0606

リブラン・ミュージアム・オブ・アート「メセーヌ」

INAXの
抗菌商品
ぞくぞく
新登場

■「清潔性」と「メンテナンス性」が大きく向上

水まわりの清潔さに対する人々の関心は高く、パブリックスペースをつくるうえでも無視することはできません。また、どうしても汚れがちな水まわりのメンテナンスには大きな負担がかかります。

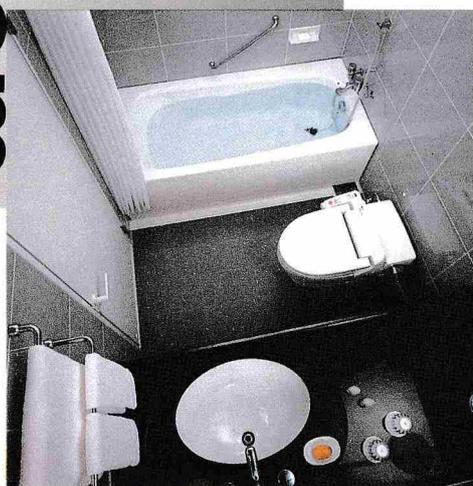
そこでINAXは、抗菌によって汚れの原因になる細菌の増殖を抑え、施設の衛生環境を向上させます。

■パブリックスペースの水まわりをまるごと抗菌

トイレ、ユニットバス、洗面台のほぼ全ての商品を抗菌化。壁・床タイルも含め、ホテルやレジャー施設、厨房、そして病院や福祉施設など衛生面の配慮が欠かせないパブリックスペースの水まわりをまるごと抗菌にすることが可能です。

さらに、抗菌仕様でも価格は据え置き。より快適な空間づくりに、幅広くお役立ていただけます。

Tiles Powder room



Public toilet Unit bathroom

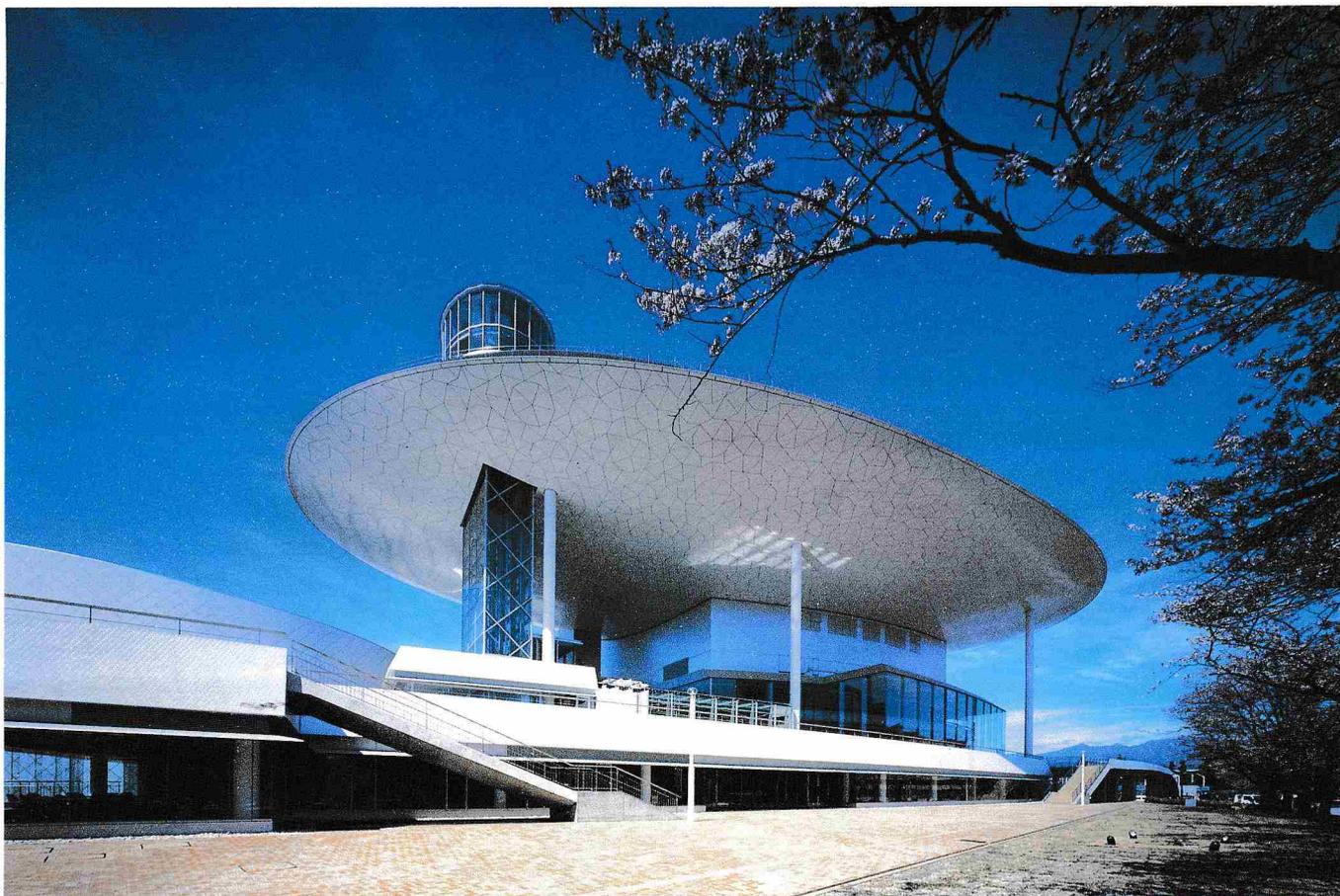
株式会社 INAX

住器営業部 〒160 東京都新宿区西新宿一丁目6番1号 新宿エルタワー ☎03-5381-7421
INAXホームページ <http://www.inax.co.jp/>

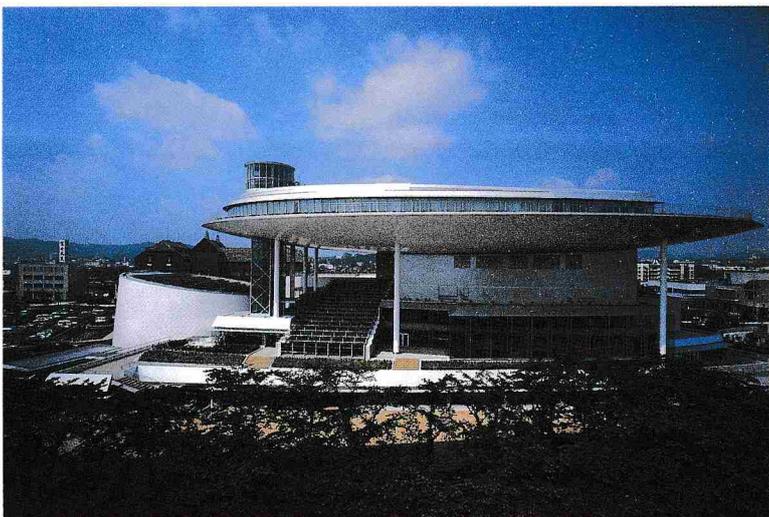


INAXなら、住まいの水まわりも「まるごと抗菌」

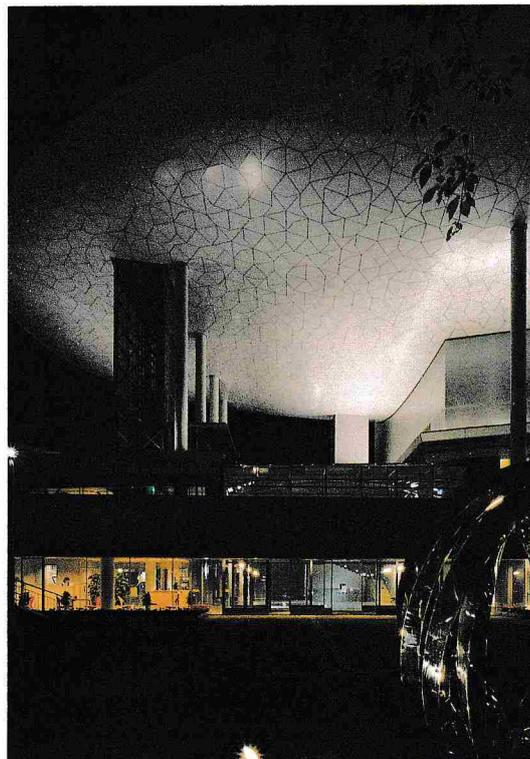
メタルで、21世紀の都市空間に美を創造する。



撮影：株式会社川澄建築写真事務所



撮影：株式会社川澄建築写真事務所



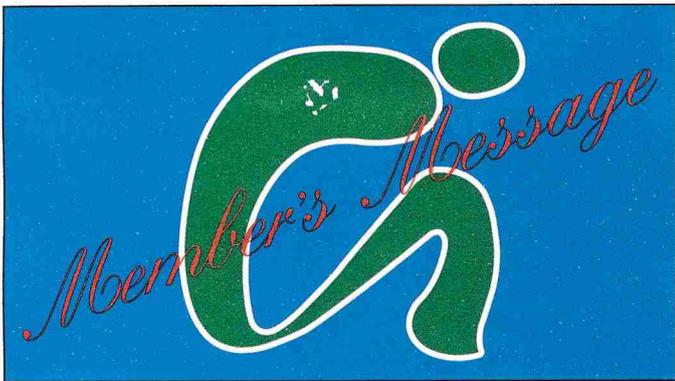
撮影：株式会社川澄建築写真事務所

桐生市市民文化会館

設 計：株式会社坂倉建築研究所東京事務所
監 理：桐生市建設部建築課
株式会社坂倉建築研究所東京事務所
施 工：株式会社熊谷組
大天井施工：菊川工業株式会社
パネル仕様：材料 アルミ板 3mm
仕上 フッ素樹脂焼付塗装



菊川工業株式会社 本社 〒130 東京都墨田区菊川2-18-10 TEL 03-3634-3231(代表)



高部多恵子
版画andセラミックアート展(個展)

- 日本橋三越本店 '97. 11/4~11/10
- ニューヨーク、ソーホーにて '98. 6/6~6/25

高部 多恵子

〒225 神奈川県横浜市青葉区あざみ野4-16-43
TEL 045-901-2009 FAX 045-902-8981



メプラインは、金属と樹脂の特長を最大限に生かし、軽量で可撓性のある給水・給湯用配管です。

モニター使用を募っています。

日本鋼管継手株式会社 東京支社

〒103 東京都中央区日本橋馬喰町1-14-5
日本橋Kビル7F

TEL 03-3639-1621 FAX 03-3639-1640

床用大型陶板「セラテール」

450 × 450 × 13mm

新発売! 17,500円/㎡

大塚オーミ陶業株式会社

〒101 東京都千代田区神田司町2-6
TEL 03-5295-3555 FAX 03-5295-3556



主に集合住宅の設計をしています。
15坪程の多目的ホールを外部の方にも開放しています。展示会や教室等の文化的活動にご利用下さい。

株式会社 集研設計

〒160 東京都新宿区荒木町5番地SEIビル
TEL 03-5363-7061 FAX 03-5363-7062

**アートコミュニケーションの
輪をひろげます。**

株式会社 東京マルイ美術

〒124 東京都葛飾区細田1-10-12
TEL 03-5694-9731 FAX 03-5694-9733

**住宅から、家具まで
音響環境として考えている
会社です。**

音響リフォーム株式会社

〒164 東京都中野区中野2-23-1
ニューグリーンビル101
TEL 03-3383-2170 FAX 03-3383-2173

「暮らしにアートを!!」
建築家・アーティストの方々、私達と一緒に地域に文化を提供できるマンションをつくっていきませんか。

住まいと暮らぐり
リプラン 株式会社

〒173 東京都板橋区大山町17-4
TEL 03-3972-0072 FAX 03-3972-0606

大成建設グループの住宅リフォーム
専門会社です。
住まいのリフォームなら、
何でも御相談下さい。

大成リビングライフ株式会社

〒141 東京都品川区西五反田7-24-4 K.U.ビル8F
TEL 03-3490-1188 FAX 03-3490-1190

「感動」を永遠のテーマに
「ときめき」を創造します。
失われていた活力を街にとり戻します。

作家集団 **アトリエ・モダンアート**

東京都港区虎ノ門3-22-7
ニューハイツ芝公園 1004
TEL 03-5401-0152 FAX 03-5401-0151

建設業界専門の調査機関！
業界日本一の資料と情報網を完備。
債権管理、新規開拓の必読書
“週刊建設リサーチ”

(株)建設業信用調査協会

〒169 東京都新宿区大久保1-1-48 中央ビル5F
TEL 03-3209-4201 FAX 03-3209-4248

〈ロブマイヤー・シャンデリアの日本における設置例〉
浜松アクトシティ、
アクロス福岡、ハーモニーホールふくい、
長野国際21他

ロブマイヤー・サロン **(株)ロシナンテ**

〒107 東京都港区南青山4-11-14
TEL 03-3423-4552 FAX 03-3423-4554

今後不可能な最後の木造のフルサイ
ズテンプル、香港「志蓮淨苑佛寺」
の建立に際し、当社でブロンズ仏像
8体の製作をしています。

黒谷美術株式会社

〒934 富山県新湊市奈呉の江10-7
TEL 0766-84-8111 FAX 0766-82-5000

樹齢数百年の^{たいほく}巨樹！ ^{あなた}貴殿に命を頂き
たい、彫刻版画に家具欄間、建築材か
らサウナ材、北米より銘木が来た。
各種シダー、スプルース。

斑尾ログホーム

〒389-21 長野県下水内郡豊田村大字永江8156
TEL 0269-38-2390 FAX 0269-38-2603

建築に無限拡大する映像空間、
アート環境を創造する
光芸スマ・ブライトアート
AACAA賞米国IIDA賞
オーストラリア4大学講演

スマ・ブライトアート研究所
土屋 壽満

〒558 大阪市住吉区杉本2-10-14
TEL 06-698-2525 FAX 06-698-2525

住宅をベースに様々なジャンルに
チャレンジしています。
意欲満々の設計事務所です。

有限会社 **桜井建築設計事務所**

〒161 東京都新宿区下落合3-15-20
目白大和田603
TEL 03-3954-2007 FAX 03-3954-7007

建築・建材市場のマーケティング・コミ
ュニケーションのプロフェッショナル

〔マーケティング調査、広告、〕
〔カタログ、クリエイション〕

株式会社 **SP建材エージェンシー**

〒101-0047 東京都千代田区内神田3-2-12 陽光ビル
TEL 03-3256-5391 FAX 03-3256-5396

メンバーズ・メッセージ募集のお知らせ
メンバーズ・メッセージ広告企画の参加を
広く募集しています。ふるってご応募下さい。
料金/1コマ：3万円(写真掲載をご希望の方は、2コマ
以上にてお願い致します。)

社団法人 **日本建築美術工芸協会**

〒108 東京都港区芝5-26-20 建築会館6F
TEL 03-3457-7998 FAX 03-3457-1598

カモメの星

波の音が地球のリズムを刻む。

海辺の景色にカモメが溶け込んでゆく。

いつから、こんな光景が繰り返されてきたんだろう。

そんなことを考えると、あたりまえの光景が、

たまらなくいとおしく感じられます。

この星の上の、こんな時間が、

いつまでも、いつまでも、続きますように。

私たちは、道や、ビルや、街が生まれるそのそばで、

静かないのちが精一杯生きていることを

忘れずにいたいと思っています。

大成は建設を通じて人類の未来を創造しています。

けれど、様々な生き物たちの場所を借りながら、

この惑星で創造を続けているのだという事実を

しっかりと胸に刻んでおきたいと思っています。



TAISEI

大成建設